

パーキンソン病歩行訓練装置 「レーザーステップ」の開発

眞殿 浩之、堀口 知彦

[川村義肢 株式会社]

安東 範明

[国立療養所西奈良病院 神経内科

]

パーキンソン病による歩行障害である歩幅の縮小やすくみ足は、足元に適当な間隔で障害物などの目標を置くことで改善することが知られている。我々はパーキンソン病による歩行障害を持つ症例に対してレーザーラインを遊脚足の接地目標に照射できるシステムを開発し、それを用いた歩行訓練を継続することによってすくみ足が解消し、歩幅の拡大による歩行速度の増加が得られることを報告してきた。

従来個々の症例に対して靴型装具を製作しレーザーラインシステムを取り付けていたのに対し、今回はより多くの症例に本システムの有用性が確認出来るよう、汎用型で市販の靴に簡単に着脱できるレーザーラインシステム「レーザーステップ」を開発し、訓練の導入時及び施設内での訓練において良好な結果を確認したので報告する。